



元気いっぱい!

山都町の女性たちが活動するグループ  
「山都のやまんまの会」

「山都のやまんまの会」は、平成23年春に発足した新しい会。生まれや育ち、職業など生活環境が異なる女性たちがそれぞれの活動フィールドの垣根を越えて組織された。「決してグチを言わない。明るく前向きで、世の中のために人間である。」を合い言葉に、研修や勉強会など活動の場を拡げている。今回のイベントも「まずは自分たちのやれることをやってみよう」という想いから「やまんマルシェ」の実現に向けて進み出した。誰かがアイデアを出し、メンバーのおのおのが能力や経験を活かし磨き上げ、形作っていく。それぞれの「できること」をひらすら考え、話し合いを重ねた結果、「やまんマルシェ」の実現に結びついていった。山都のやまんまの会は、ごく普通の女性達一人ひとりの様々な個性を大切にしながら、次々と溢れる多種多様な発想を「地域おこし」に結び付けたいとしているが、これは、地域に眠る新しい人材を掘り起こす「人起こし」と表現した方が正しいのかもしれない。女性の持つ豊かな感性と生活体験を通じた視点や行動力が、この町を変えていくだろう。



「今回の参道市が成功したのは、地域の皆様、そして敷地の整備や音響、駐車場にも町内各事業所様の協力があるなど、多くの方々に支援していただいたおかげです。本当にありがとうございました。」と語るのは、山都のやまんまの会会長の石井陽子さん。

「恋」をテーマの仕掛けは、「恋絵馬」や「恋のかをり袋」、「恋みくじ」。



参道を駆け上る「福女(ふくおんな)」選びは、町外から参加した女性も。

「音楽と楽しむ本の読み聞かせ」には、大人も子どもも足をとめて聞き入っていた。

「恋絵馬」を製作したのは矢部高校緑科学科の生徒たち

神社からは、女子の憧れ「巫女さんの衣装」も貸し出してくれた。

各出店者たちが、こだわりの演出で来客者をもてなしてくれた。

山都町の宝、無農薬の安心安全で美味しい農産物のお店は大好評。

## 「恋愛成就！」恋一路神社で参道市開催

浜町商店街の一角に佇む小一領神社。寛仁2年(1018年)に建立され、普段は静寂な雰囲気にも包まれたこの場所が、3月3日の桃の節句、華やかな空気に満ちた。別名「恋一路神社」と呼ばれるこの場所を舞台に、山都のやまんまの会主催による恋愛や女性らしさをテーマにした「やまんマルシェ」が開催された。参道や境内には町内外から53もの個性的な店舗が並んだ。なんと来場者は1,200人にも及び、参道の随所にあしらわれた桃の切り花の香るなか、手作り感溢れるイベントや小さな可愛い店舗で賑わった。



小一領神社の本殿には5つのハートマークがあしらわれている。桃の節句に行う恋愛をテーマにしたイベントにはぴったりの場所。



「やまんマルシェ」は、浜町の新しいイベントとして、また、2018年に迎える神社の千年祭に向けて、定着させていきたいと胸を膨らませている。

# やまんまの会

こいちろう(こいいちろ) 小一領(恋一路)神社

## 参道市

# マルシェ

マルシェ[marché]とは仏語で、市場とか歩くという意味。日本でもいしえから参道には「市」が立っていた。消費者と生産者・小売業者が非常に近い距離で触れあえる市を興すことは、日本社会ではなじみ深いものである。「マルシェは、歩くと元気になる。」といわれる。恋が叶う神社と親しまれるようになったこの場所で、やまんまの会の市=マルシェをやるようになったのは、至極当然の成り行きだった。